

「生活のための日本語」の学習項目一覧作成に向けて ー国内外の自国語教育内容の分析をもとにー

福永由佳・金田智子・黒瀬桂子

(国立国語研究所・日本語教育基盤情報センター)gakushu-koumoku@kokken.go.jp



本研究の位置付け・目的

国内外の自国語教育の教育内容を比較分析する

- コミュニケーション能力, 言語能力の捉え方
 - 外国人が移動先の社会で生きていくために身につけるべき知識, 能力の枠組みと要素
- **日本社会で生活していくために必要な日本語, すなわち「生活のための日本語」の探求**

使用データ

＜日 本＞中国帰国者定着促進センターの「目標構造表」

＜オランダ＞ 市民統合テストにおける「オランダ語」と「オランダ社会に関する知識」のシラバス

＜アメリカ＞ 成人教育専門機関(Comprehensive Adult Student Assessment System)のコンピテンシーリスト

国内外シラバス比較 (日本, オランダ, アメリカ)

各シラバスの分野一覧

(シラバス対照は配布資料を参照)

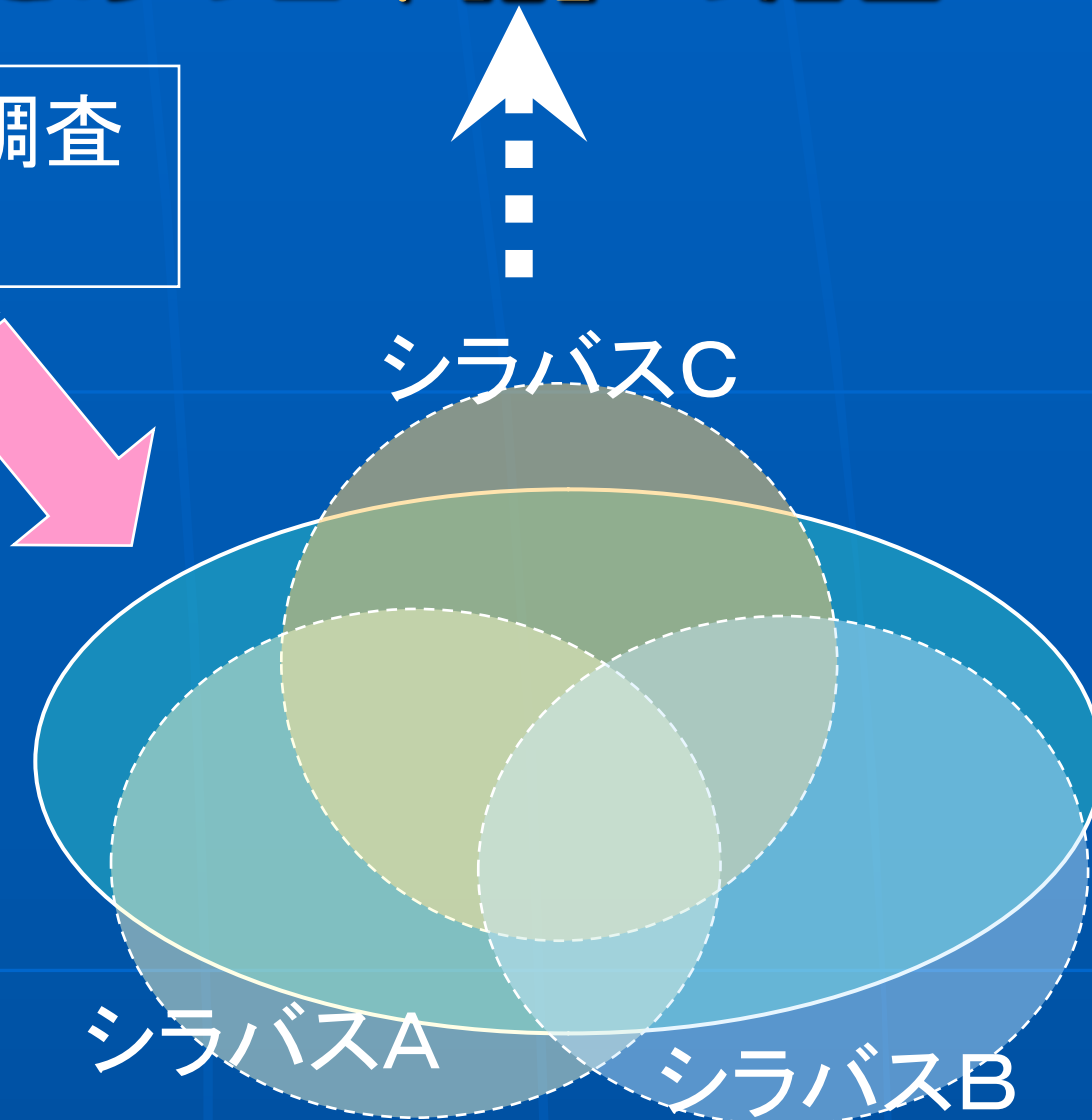
日本	
行動	交通
	消費生活
	センター
	住居・近隣対応
	職場・自分学校
	健康
	通信
	社会福祉・手続き
知識	子弟教育
	一般教養
	異文化
	日語自学
	情報収集
コミュニケーション	話題コミュニケーション
	日語知識

アメリカ	
関する知識社会に	基礎的なコミュニケーション
	消費者経済
	地域社会のリソース
	健康
	雇用
	政府と法律
	計算
	学ぶことを学ぶ
	自立生活のスキル

オランダ	
関する知識社会に	仕事と収入
	マナー、価値観や規範
	住まい
	健康と保健医療
	歴史と地理
	各種機関
	国家組織と法治国家
	教育と育児
	市民生活
	育児, 健康, 教育
オランダ語	就労分野(一般)
	就労分野(職種別)

「生活のための日本語」の抽出

言語使用実態調査
& ニーズ調査



■ 国内外のシラバスに共通する特徴

(1) 言語能力と社会に関する知識・スキルの両立

言語能力に関する領域と社会で成人として生活するために必要な知識・スキルに関する領域の両方が重視されている。しかし、それぞれの扱いについては、制度や政策によって違いがある。

(2) 成人に不可欠な文脈の設定

成人が社会生活をおくる上で必要となる領域(健康・福祉, 教育, 就労等), さらにそれらの領域で遭遇する具体的な場面やタスクを取り込む。

健康の例

- ＜日 本＞「病院への付き添いを頼む」
- ＜アメリカ＞「医療費について明確な説明を求める」
- ＜オランダ＞「医学的緊急事態に対応する」

就労の例

- ＜日 本＞「簡単な面接試験に対応できる」
- ＜アメリカ＞「就職に適切な振舞い・態度を特定する」
- ＜オランダ＞「書面に書かれた求人情報を探す」

(3) 社会的なコミュニケーションの重視

基本的な挨拶をすることや自分自身について表現することなど, 社会的コミュニケーションを進める能力が求められる。

- ＜日 本＞「自分に身近な話題でコミュニケーションできる」
- ＜アメリカ＞「個人間の交流のためにコミュニケーションする」
- ＜オランダ＞「日常的な人づきあいを始め, 維持する」

(4) ストラテジー利用の明示

理解できないことを話し手に伝えるといった, ストラテジー利用の項目が見られる。

＜日 本＞「相手の発話がわからないとき, 相手の発話が伝わらないときの対処ができる」

＜アメリカ＞「よりうまくコミュニケーションするためのストラテジーを特定・利用する」

＜オランダ＞「理解の確認のため, 指示内容を自分の言葉で再現することができる」